

2017  
日本財団 海と日本プロジェクト

海の学校  
サンゴの絵本と海の宝地図づくり

活動報告書

# 目次

1. 事業概要
2. 授業実施レポート
3. 紙芝居について
4. 絵本について
5. 教本について
6. 公式サイトについて

# 1. 事業概要

## 1. 「サンゴの絵本」「陸と海のつながり紙芝居」制作

(1)時期:2017年4月～2018年2月

(2)内容:

サンゴの生態や共生関係、陸と海のつながりといったテーマを、思わず惹き込まれるストーリー仕立てで紹介。鮮やかな色彩と躍動感あふれるイラストを駆使し、教科書的ではなく、視覚的・感覚的に理解を深め、自分たちにできることを主体的に考えるきっかけになることを目指す。絵本に対応した「陸と海のつながり紙芝居」も合わせて制作し、大人数への読み聞かせを行うためのツールとする。

(3)実施報告:

愛媛県と高知県の小中学校の先生方と意見交換をしながら、絵本と紙芝居の内容を検討。京都大学フィールド科学教育研究センター 伊勢武史准教授にもアドバイスを頂く。紙芝居は、陸と海のつながりを水の巡りを入りにストーリー化し、試作版を制作。小学校での授業を行い、子どもたちや先生方からのフィードバックを元に内容を再構成。よりメッセージの伝わりやすい内容、授業で使いやすい内容に修正を加え、紙芝居『雨つぶくんの大冒険』が完成。紙芝居の中で、森の栄養を川とつたって海へと運ばれる様子を描き、それに応える形で、サンゴの海の世界を描く絵本を制作。サンゴの生態や藻との共生関係、視覚的・感覚的に理解できる形を目指す。気候変動と海の課題について考える内容も盛り込み、海が直面する問題について主体的に考えるきっかけ作りを目指し、絵本『サンゴの海のひみつ』が完成。

## 2. 「せいめい地図づくり」授業

(1)時期:2017年9月～2018年2月

(2)場所:高知県高知市、愛媛県西条市

(3)参加者:

- ・高知市立久重小学校 60名
- ・西条市立吉岡小学校 20名

(4)内容:

紙芝居などを活用したレクチャーの後、地域を流れる川を上流、中流、下流と辿り、水の流れを入り口としながら、水の役割や陸と海のつながりなどを学ぶ授業を実施。川や海辺の状況、周囲の環境を観察し、それをベースに、自分たちの水の地図を制作する。

(5)実施報告:

実施小学校周辺を中心にフィールドワークを行い、授業の実施に適した場所を探しながら、授業の内容を検討。先生方とも打合せを重ね、他の授業との関連付けなども視野に入れながら、授業の内容を構成。授業は、座学、フィールドワーク、地図作り、の3部構成で実施した。座学では、森川海のつながり、水の役割などを中心にレクチャー。フィールドワークでは、上流から下流（海辺）まで、水の流れを辿りながら、その周辺の環境を観察。取材形式で水のありかを探したり、顕微鏡を使った観察などを行った。地図づくりでは、自分たちの体験した内容を第三者に分かりやすく伝えることを目標に子どもたちの感性を自由に使った表現で、ユニークな地図ができあがった。

### 3. 「せいめい地図づくり」公式ウェブサイト開設とネットワークづくり

(1)時期:2017年10月～2018年2月

(2)内容:

「せいめい地図」づくり授業をウェブ上で公開し、森川海のつながりや水の役割などを学ぶきっかけづくりを行う。紙芝居や絵本の活用ガイドも合わせて制作し、他地域への情報発信を行う。

(3)実施報告:

他地域の先生方にも同様の授業実施に関心を持ってもらうため、紙芝居と絵本の活用ガイドを制作し、学習指導案の提案を行った。地域と海との繋がりや、身近な自然を入口とした地球全体の環境システムへの関心を育むプログラム作りを目指し、先生方に海洋教育の担い手となる仕組みを提案。環境教育や海洋教育に馴染みのない先生方にも興味関心を持っていただけるよう、授業の様子をウェブサイトやSNSを通じて公開。